連結可能匿名化（後ろ向き研究）

久留米大学を受診した患者さんへ

「院内感染症コンサルテーションにおける外科コンサルト症例の検討」の研究に使用する試料（情報）について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料(情報)を使用します。

1）期間：2011（平成23）年4月から2015（平成27）年3月

2）受診科：海外旅行・ワクチン外来

3）対象疾患名：外来でA型肝炎ワクチン(国産・輸入)　かつ/または　腸チフスワクチンの接種症例

4）使用する試料（情報）：診療情報

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申しあげます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申しあげます。

1）研究組織：所属：感染制御学

研究責任者：感染制御学講座　教授　渡邊 浩

研究分担者：感染制御学講座　准教授　濱田　信之

感染制御学講座　講師　升永 憲治

感染制御学講座　助教　岩橋 潤

感染制御学講座　助教　八板 謙一郎

久留米大学病院　薬剤部　副主任　酒井　義朗

2）研究の意義と目的：近年、日本人の海外渡航者数は増え続け、年間1700万人以上になっています。渡航先や渡航形態にも変化が見られ、仕事のため家族連れで長期間開発途上国に赴任する場合や、既存の観光地のみならず冒険旅行のように従来とは異なる地域に足を踏み入れる場合などが多くなっており、海外渡航者がさまざまな感染症に罹患する危険性が増加しています。A型肝炎、腸チフスは海外渡航者が感染する場合がある疾患であり、国内での新規発生頻度は高くないですが途上国を中心に流行がみられ、両者のワクチン接種は高頻度に行われます。これらのワクチンは、本邦においても渡航前の接種ワクチンとして需要があり、特に腸チフスワクチンは海外では広く使用され有効性、安全性が確立されています。しかし国内では未認可であり、輸入ワクチンを取り扱っている限られた医療施設でしか接種できないのが現状です。輸入A型肝炎ワクチン、腸チフスワクチンに関して我々は倫理委員会の承認（10201）を得て、接種を行ってきました。A型肝炎（国産・輸入）、腸チフスのワクチン接種者を後ろ向きに解析し、その疫学的検討を行うことでトラベラーズワクチンの適切な普及に努めるのが研究の目的です。

研究番号 15214

3）研究の方法：後ろ向き研究　（A 型肝炎群（国産・輸入）と A 型肝炎（国産・輸入）＋腸チフス接種群の 2 群間比較）で、接種への寄与因子（年齢、性別、渡航先、渡航期間、渡航までの期間、渡航理由、会社負担有無など）を明らかにします。

4）研究期間：平成 28 年 1 月倫理委員会承認後～平成 32 年 12 月 30 日

5）上記の試料（情報）の使用を選定した理由：当診療科は国内でも有数の症例を有しており、国内のデータとしては最も大きい研究となります。

6）プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：名前、イニシャル、住所、正確な入院の日付について記載はしません。

7）研究成果の発表の方法：学会や論文形式で発表します。

8）利益相反：特定企業からの資金援助はありません。

9）事務局、問い合わせ、連絡先：

（代表者氏名）久留米大学病院感染制学講座　助教　八板　謙一郎
（住所）久留米市旭町 67
（TEL）0942-35-3311（FAX）0942-31-7826

研究番号 15214